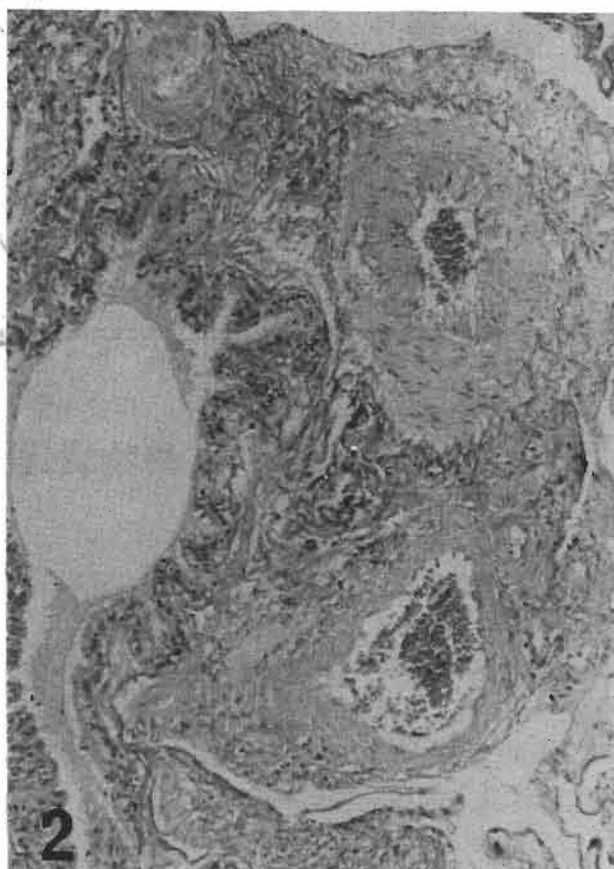
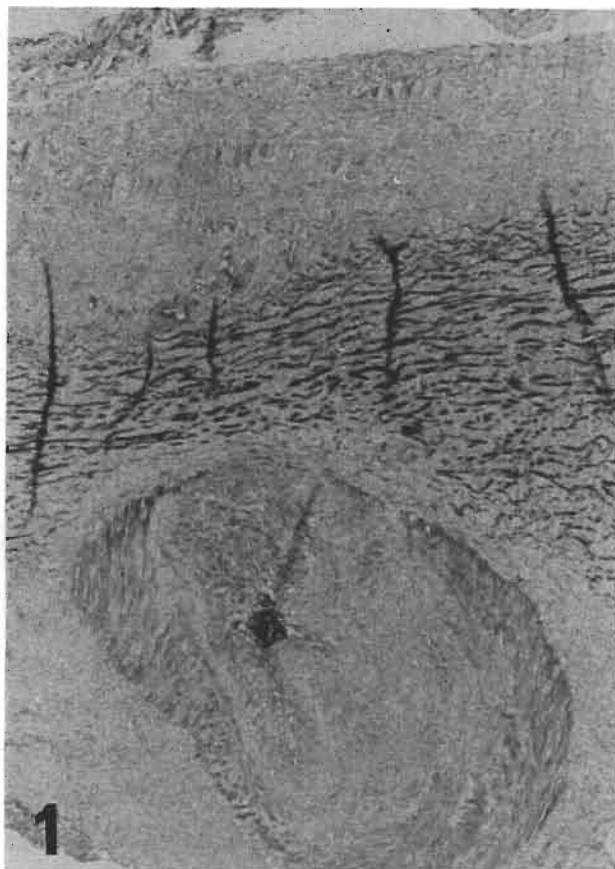


# 象の肺

東京農工大学農学部家畜病理学教室出題 第31回獣医病理学研修会標本No.552



**動物：**インドゾウ，雌，推定43歳，2700kg。

**臨床事項：**長期間生殖器よりの出血があり，加療中であつた。概して採食量が少なく削瘦，動きが緩慢であつた。1990年3月13日朝，インドゾウ舎の濠内に転落し，そのまま斃死していたのを発見した。

**病理解剖学的所見：**右肺の黒赤色の充出血と浮腫，左肺の浮腫，気管粘膜の充うっ血と泡沫充満，左心内膜の充出血，子宮粘膜の腫瘤（筋腫？），卵巣囊腫（東京都多摩動物公園による剖検記事より転載）。

**組織学的所見：**最も特徴的な所見は太い弾性線維を多量に含む厚い胸膜と，その直下の肺内肺動脈の内膜肥厚及び強度の狭窄であつた（写真1，HE染色，弱拡大，狭窄した管腔内に赤血球をみる）。象の胸膜は胸壁と生理的に癒着，写真1の上端にみられる不整・付着様物を示す結合組織はその癒着部の人工的離断によって生じたものであつた。

興味ある所見として，気管支に沿って走行する2本の小動脈のうち一方の管壁には中膜の肥厚及び平滑筋細胞の増生を伴う内膜の強い肥厚を示す像がしばしばみられた（写真2，HE染色，中拡大）。血

管変化以外には巣状の慢性肉芽腫性肺炎像を含む，間質の増殖性変化が各所に観察された。

**考察：**今回の象のように肺が胸壁と生理的に癒着し，呼吸生理に関しても特殊な側面が考えられる日頃検索する機会に乏しい動物については比較解剖学的及び比較病理学的立場よりその機会をとらえ，知識を積み重ねることが重要であろう。

今回得られた中膜・内膜肥厚を示す肺内肺動脈において，気管支に併走する2本の小動脈のうち一方の管壁には病変が乏しいことが多く，気管支動脈と肺動脈の鑑別を試みたが，その区別はできなかった。また，肺間質組織の増殖性変化及び一部に炎症性変化を伴っていたことから，血管変化は間質組織の二次的変化であることを完全には否定できなかった点もあった。しかし罹患小動脈の分布状況から，加齢に伴う肺動脈変化と想定した。

**診断：**高齢象における肺の間質反応を伴った肺内肺動脈硬化症。討論の中で象の寿命と今回の症例を高齢とみなしたことに對し議論があつた。